

策定年月	令和6年8月
見直し年月	令和 年 月

麦・大豆国産化プラン

産地名：宮城県大崎市

(作成主体：株式会社三本木グリーンサービス)

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

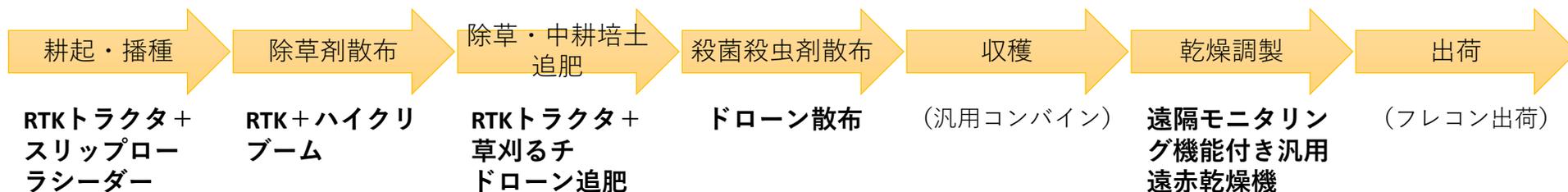
(1) 大豆生産の現状と課題

- ・当地域は、古くから水田を活用した大豆生産が盛んな地域で、ミヤギシロメなど実需からのニーズが高い品種を積極的に作付けしている。
- ・農業者の高齢化と後継者不足により、担い手に農地の集積が進んでおり、規模拡大に対応していく必要がある。
- ・近年は、気候変動による異常気象の頻度が高まっており、湿害や干害などへの対策が重要になっている。
- ・特に、大豆の連作による生産性低下を回避するため、水稻輪換によるブロックローテーションに取り組むなかで、水稻から大豆に転換した後の湿害対策が重要である。
- ・規模拡大に伴い、天候不順に対応した播種・中耕培土・農薬散布などの適期作業が難しくなっており、単収及び品質の低下が課題となっている。
- ・収穫時期の天候により適期収穫が困難な場合や、高水分での収穫を余儀なくされる場合があり、乾燥調製に時間を要したり、高水分のまま保管することで品質低下する場合がある。特に、JAの大豆センターでは、高水分の大豆を受け入れないため、高水分で収穫した場合は、通風乾燥で時間をかけて乾燥する必要があり、適期収穫のネックとなっている。

(2) 課題解決に向けた取組方針

- ・スマート農業技術を導入し、作業時間の短縮、人員の削減及び作業負担の軽減を図るほか、作業精度の向上等による作物への負担軽減により、適期作業を可能にするとともに収量・品質の向上に対応する。
- ・中耕培土作業と同時に畦間の深耕を行うことで、湿・干害を回避し、大豆の生育を確保する。
- ・大豆栽培と水稻乾田直播栽培の輪作体系を導入し、排水性をできるだけ損なわないように水田作と畑作を両立する。
- ・短い収穫適期に対応するため、汎用乾燥機を複数台導入し、品質の良い大豆を調製する。

【大豆栽培へのスマート農業技術の新規導入】



※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

宮城県大崎市産地 連携方針:実需者が求める品種の作付と高品質の原料供給
取組の中心となる農業者:株式会社三本木グリーンサービス

取扱量の現状(R5年産) : 118t
目標値(R8年産) : 130t

全 農

取扱量の現状(R5年産) : 118t
目標値(R8年産) : 130t

納豆製造業者 :
豆腐製造業者 :
煮豆、味噌、醤油製造業者 :
豆乳製造業者 :

※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割

